

# 東北 VALUE SIGHT 宮城



財団法人仙台観光コンベンション協会 専務理事

**黒田 清志** (くろだ・きよし)

1947年、仙台市生まれ。  
1973年、仙台市役所に入職。経済局各課（商工部、農  
林部、(財)仙台市産業振興事業団）に勤務し、2007年4  
月より財団法人仙台観光コンベンション協会専務理事。  
財団法人仙台観光コンベンション協会  
〒980-0012 宮城県仙台市青葉区錦町1-3-9  
TEL 022-268-6251・FAX 022-268-6252  
<http://www.stcb.or.jp/>

仙台観光コンベンション協会では、仙台を活性化する新  
たな事業の育成・バックアップなどを行う事業に取り組ん  
でいる。観光による集客のみならず、来訪者を増やすこと  
を目的としている。近年、ヘルスツーリズムなど「ニュー  
ツーリズム」といわれる新しいタイプの旅行ニーズが高  
まっていることから、注目される取り組みである。

## ネットワークでつ くる集客交流産業

### 仙台ビジターズ産業ネットワーク 事業=VI事業とは

「仙台ビジターズ産業ネットワーク事業(以下VI事  
業)」は、平成16年から仙台市経済局と仙台観光コン  
ベンション協会が、来訪者にかかわる産業=ビジ  
ターズ産業の担い手をネットワーク化し、支援し、  
魅力的な街をつくることにより、来訪者が増加し、  
その結果、地域の経済が活性化することを目的とし  
て行っている事業である。

「来訪者」とは観光客はもとより、会議参加・商取  
引・通勤・通学・通院・買物・公演など、さまざま  
な目的を持った、市外からの訪問者である。

「ビジターズ産業」とは、来訪者に対し、集客・移  
動・滞在に関する商品・サービス・情報を提供する  
広範な産業群である。

また、近年、観光が従来の枠組みを超えて「産業、  
農山漁村、医療」など、広い領域を対象としてきて  
いることもVI事業の必要性につながってきている。

地域経済を活性化するためには、2つの考え方  
がある。1つは「地域内に地域外から人や投資を呼び  
込むこと」であり、2つ目は「地域内の製品・サー  
ビスを地域の内外に売ること」。

VI事業はこの考え方に沿っている。また、従来の  
観光客誘致・物産販売よりも対象を拡大し、地域の  
活性化を図るための「仕組み」を作り「担い手を育成・  
支援」する事業手法を取っている。

さらに、1次・2次・3次産業はもとより、教育・  
福祉・医療・芸術・文化など、広い分野との連携を  
視野に入れた事業となっている。

### VI事業の内容

具体的な事業の内容は、次の5つである。

- ①「コアメンバー会議」:事業全体の基本的な枠組み  
などを決める。委員長は宮原育子宮城大学事業構  
想学部教授。
- ②「チャレンジ・ミーティング」:市民・企業・団体  
などの異業種の交流会。
- ③「認定(助成金)事業」:事業計画を公募して認  
定・助成を行う(「アイデア・スタディ」5万円以  
内、「ビジネス・スタディ」50万円以内)。
- ④「ビジターズ産業フォーラム」:講演会・報告会と  
交流会。年1回。
- ⑤「広報・紹介・助言等」:相談、申請のあった事業  
計画の広報や関係機関への紹介、計画書作成の助  
言など、事業実現のための支援を行う。

### 多彩な事業内容

平成17年度以来6年間で、前述のVI事業の内容③  
の認定(助成金)制度を活用した事業数だけで合計  
95件(平成22年11月末現在)となっている。

具体的な事業としては、旅行企画で「伊達の歳時記パ  
スツアー」、食関連で「仙台づけ丼」・「ゼリーの街」、  
催事で「BOOKイベント 仙台を本の街に」・「お薬  
師手づくり市」、商品開発で「秀才文具セット」・「動  
物園、天文台等のミュージアム・グッズ」、情報発信  
で「宿泊客向け情報誌ホテカラGO」、人材育成で  
「フードビジネス専門塾」・「センダイ自由大学」など、

その内容は非常に多彩な分野にわたっている。

### 平成20年実施「仙台・宮城デステイ ネーション・キャンペーン」の効果

平成20年10月~12月に「仙台・宮城デステイ  
ネーション・キャンペーン」が実施された。「デステイ  
ネーション・キャンペーン(以下DC)」とはJRグループ  
6社と各都道府県が、3カ月単位で実施する大型観  
光キャンペーンである。

平成16年からVI事業で計画・実施してきたさま  
ざまなプロジェクトにとって、「仙台・宮城DC」は絶  
好の機会となり、VI事業から仙台エリアのDC事業メ  
ニューに多くの提案がなされ、採択・実施されるこ  
とになった。

仙台・宮城DCは、単に観光関係者だけでなく地域  
全体が一体になり取り組むという姿勢で準備し開催  
したために、急激に悪化した経済情勢や岩手・宮城  
内陸地震の影響を受けながらも、相当の成果を上げ



VIチャレンジミーティング全体会

ることができた。

なによりもVI事業やDCの実施により地域の事業  
者が業種を越えて連携して、内外の顧客に対し、常  
に商品を提案する気運がつくられたことが大きな成  
果だといえる。

### 今後のテーマと方向

従来、仙台におけるまちづくりの大きなテーマと  
して「学都」と「楽都」があった。今後は、それに  
加えて「交流の在り方」・「東北各地とのネットワ  
ークづくり」・「情報発信」・「海外からの集客」など  
を視野に入れていく必要があると思われる。

このVI事業により、経済のみならず文化・芸術・  
教育などさまざまな分野と連携して地域活性化を図  
り「経済的に元気な街」に加えて、「心から人生を楽  
しめる魅力的な街」をつくる役割を果たしていきたい  
と考えている。

(参考:仙台ビジターズ産業ネットワークホームページ  
<http://www.stcb.or.jp/vi/>)



VIフォーラムでのパネルディスカッション(2009年3月)